

※この学生の感想は、国際武道大学における模擬裁判員裁判に参加した韓国人の留学生が書いたものです。誤字や読みにくい点もありますが、学生の声をそのままお伝えするため、あえて修正せずに載せています。

## 謀議裁判人裁判

最初に先生が模擬裁判をするよと言った時には皆、日本語もまだだし、裁判で使う日本語は日常生活には使わないと思って裁判なんてやらなくてもいいんじゃないかなーと思ってた。特に多量の資料をみてからはもっとやる気がなくなった。でも模擬裁判の準備として直接弁護士が来て事件に対して説明を言い、少しずつ興味を持ち始めた。私もこの時、資料の内容を読み始めて少しずつ事件に興味を持つようになった。内容はおもしろかったし、まるで推理小説みたいだった。化けてる母親の面倒をみてる弟が母親をアクシデントで殺してしまい、兄は母親を殺した弟を許せないし、近所では普段お母さんの面倒を見た弟は絶対そんな人ではないという2つの選択にあってどんな観点で見るか私も難しかった。何回も読み返してからやっと自分の考えがまとめられた。その考えは韓国人として弟の立場でみるように、そして一つのアクシデントだと思ったから

模擬裁判の当日、私は前から分けられていた裁判官として、裁判官の服を着て裁判官の立場で裁判官の心で行った。その他にも検察官と弁護人の3チームに分けてお互いの位置で裁判を始めた。裁判は実際に裁判官と弁護士様たちが来て裁判の進行を手伝ってくれたし、被害者と証人役でも演技者さんが来てリアリティーの増やしてくれた。カメラ撮影もあったし。外国人を対象での裁判も撮影も初めてでしかも世界で初めてだと言われた。

裁判は裁判官の言葉で始まったし、私の心も裁判官の心に変えて、個人的な心は抜いて中立的な立場で証人の話を聞き始めた。資料の内容と違ったところはなかったけど私が知りたかった部分を質問をして返事を聞きながら少しずつ自分なりにの裁判の結果を作っていった。検察官の論告を聞く時には検察官の心で、弁護人の弁論を聞く時には弁護人の心で被告人をみた。最終意見後、昼休をとりながら裁判官チームの人員と判決をした。弁護人の弁護がよかったか、韓国の文化に慣れてたか個人的な判決は検察官の実刑より弁護人の執行猶予がいいなと思った。でも南米の方から来た友達の立場では違った。殺す気があってもなくても殺人は殺人だから実刑にしなければならないと言った。国と文化によって考えも違った。やっぱり世界は広かった。簡単ではないと見えた判決もお互いの考えをまとめて中立的な立場で、そしてさまざまな理由をまとめて懲役3年に執行猶予5年の判決が出た。このような結果は最終判決を言う前まで皆、秘密にして最終判決の楽しみにした。最後の判決は私が言ったがが検察官の立場でも弁護人の立場でも理解できる理由で判決をいわなければならなかった。

裁判が終わった後、一人一人感想を話したが最初には興味がながった裁判を皆がとても楽しく、一生に一度できるかどうかな経験をしたと皆は喜んでた。私も韓国では経験ができない貴重な経験をしたし本当に私の考え、私の一言に人の人生を決めれるなんて一人一人の大切さも分かるようになった。簡単ではない裁判という経験ができて韓国に帰ってももう一つ自慢もでき、とても嬉しいなと思った。